

課題：レンコンを食害する外来種カメを効率的に駆除する技術の確立と普及

ねらい

鳴門市では、れんこんの新芽が外来種のミシシippアカミミガメに食害される被害が発生しており、問題となっています。

そこで、市販のカニ籠を使用し、カメの行動特性に合わせた設置を行うことにより、カメを効率的に捕獲する技術を普及し、れんこんの食害被害を軽減します。

活動地域・対象

地域：鳴門市

対象：れんこん栽培農家

普及活動の目標

- ①カニ籠を使用した捕獲技術を普及する。
- ②外来種カメを捕獲することにより被害の軽減を図る。

目標に向けた活動概要

関係機関が連携して外来種カメ対策に取り組みました。

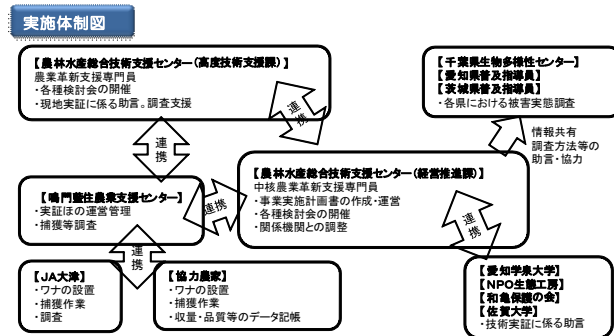


図-1 対策会議



図-2 現地調査



図-3 農業者研修会



図-4 捕獲調査

- ①対策会議、現地調査の開催（7/23、2/12）（図-1、図-2）
- ②農業者研修会（8/8、2/28）（図-3）
- ③捕獲調査（6月～7月）（図-4）

普及活動の成果

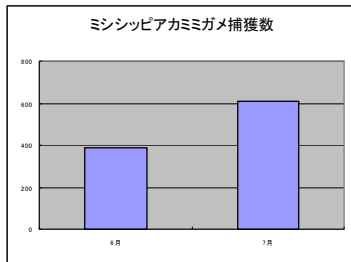
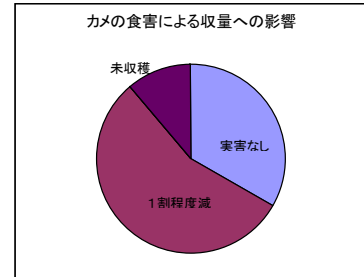
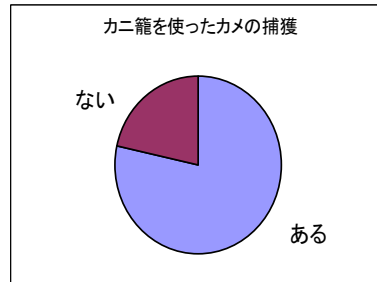
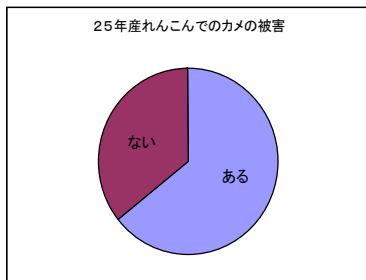


表2 体重別分布

項目	ミシシippアカミミガメ	
	H24	H25
上位5%	2,006	1,975
上位10%	1,831	1,745
全平均	740	671

- ・25年度は6～7月に約1,000匹の外来種カメを捕獲しました。
- ・25年度は24年度に比べ、大きいカメの重さ、平均の重さともに小さい値となりました。

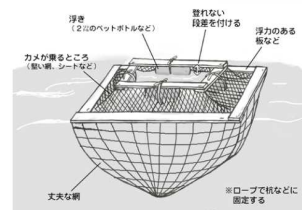


- ・25年産れんこんでカメの食害を受けたという回答は約64%で、カニ籠を使ってカメを捕獲した生産者は約79%でした。
- ・カメの食害による収量への影響は、実害なし 33%、1割程度減収 56%、未収穫 11%でした。(2/28 J A 大津れんこん栽培研究会でのアンケート調査結果)

用語 【ミシシippアカミミガメ】
 説明 ミドリガメの名前でペットとして販売されている。
 要注意外来生物に指定されている。

今後の発展方向

- 次年度も継続して捕獲調査を実施します。
- 捕獲ワナの改良を行い、外来種カメを選択的に捕獲する方法について検討します。
- 外来種カメに捕食されていたアメリカザリガニやスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）が増え、レンコンに影響が出ないか調査します。



関係者からの声

- 用水路で甲羅干しする外来種のミシシippアカミミガメを見るのが少なくなった。
- 場所によっては在来のクサガメがとれる割合が高くなった。
- 今後も捕獲調査を続けてほしい。(生産者)

高度技術支援課

連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922